

平成 30 年度

就学前教育・家庭教育推進のための市町村モデル事業

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」

実践プログラム集 Ⅱ



茨城県教育委員会

幼児教育施設の皆様，家庭教育支援に携わる皆様へ

茨城県教育委員会では，乳幼児期からの家庭教育や就学前教育の充実を図ることが，生涯にわたる人格形成の基礎を培う上でたいへん重要であるにとらえ，保護者向けのアドバイスブックとして，子どもの年齢に合わせた家庭教育支援資料を作成・配布しています。幼児期である3～5歳の子どもをもつ保護者向けの家庭教育支援資料が「家庭教育ブックひよこ」です。

この「家庭教育ブックひよこ 実践プログラム集Ⅱ」は，平成29年度から行っている「就学前教育・家庭教育推進のための市町村モデル事業」を受託した5市町村（東海村，日立市，鹿嶋市，美浦村，八千代町）の協力を得て，平成30年度に作成されたものです。

各幼児教育施設におかれましても，この「実践プログラム集Ⅱ」と昨年度発行の「実践プログラム集Ⅰ」を参考に，「家庭教育ブックひよこ」を活用し，保護者の学びの機会を積極的につくっていただくようお願いいたします。

なお，プログラムやワークシート，アドバイスカード等，即活用できるデータを茨城県ホームページに掲載しておりますので，ダウンロードしてご活用ください。

(<http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/syogai/katei/book.html>)

【プログラム中の用語説明】

学習プログラム	入所（園）説明会や保護者会などで活用できるプログラム
アドバイスプログラム	子どもの送迎時など短時間で活用できるプログラム

平成30年度実践プログラム作成協力市町村・幼児教育施設一覧

東海村	村立舟石川保育所，村立村松幼稚園
日立市	茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園 茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園
鹿嶋市	市立高松幼稚園
美浦村	村立大谷保育所，村立木原保育所，村立美浦幼稚園
八千代町	（学）ルンビニー学園たちばな幼稚園

目次

(ひよこ p.2)	●家庭教育とは	1
(ひよこ p.3)	●親子の絆	3
(ひよこ p.4)	●子育てのすばらしさ	4
(ひよこ p.5)	●お父さんの子育て	5
(ひよこ p.6)	●幼児期（3歳～5歳）の特徴	6
(ひよこ p.7)	●あいさつと返事の習慣を付ける	7
(ひよこ p.8)	●生活リズムを整える	9
(ひよこ p.9)	●きまりを守る心を育てる	11
(ひよこ p.10)	●子どもの話をしっかり聴きましょう	12
(ひよこ p.11)	●メディアの視聴を考える	14
(ひよこ p.12)	●食育の大切さを考える	16
(ひよこ p.13)	●いろいろな体験活動をしましょう	17
(ひよこ p.14)	●積極的にお手伝いをさせましょう	19
(ひよこ p.15)	●病気・事故	21
(ひよこ p.16)	●子育てチェックシート	23



家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『家庭教育とは』 (2ページ) ⇒
日時	平成30年6月号, 9月号, 11月号, 平成31年2月号 ※発行月は前月下旬
場所	茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園, せいじ園
対象者	在園児保護者
参加人数	296人 (家庭配布数)
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム
学習形態	園だよりに掲載 【執筆者】茨城キリスト教大学准教授 飛田 隆 氏
準備物等	・コラム原稿

プログラム内容

時間 (分)	内容	留意点	担当者	備考
	1 コラムの原稿を依頼 (執筆: 茨城キリスト教大学 飛田准教授) 2 発行月の10日までに、執筆者から原稿受領 3 発行月の15日頃を目安に、各園に原稿を送付 ・6月号: サブテーマ「遊び」 ・9月号: サブテーマ「睡眠」 ・11月号: サブテーマ「食事」 ・2月号: サブテーマ「排泄」	・原稿量は、B4サイズの1/6程度を目安とする。 ・年度当初に、4回分の原稿執筆を依頼。各号の原稿受領時期になったら、再度連絡をする。 ・執筆者から届いた原稿を園だよりの掲載フォーマットに整える。 ・各号、原稿量や表現などについて園に確認をする。 ・原稿確認後、園だよりに掲載する。	教育委員会・ 執筆者 教育委員会 教育委員会 教育委員会・ 園 園	幼児期の遊びの大切さを伝える。 夏休み後の、生活リズムを整えるための啓発とする。

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びが、「冒険」「実験」「発見」というのは驚きでした。いろいろなものにたくさん触れることを大切にしていきたい。 ・自分が嫌いな食材を使った料理は、作る気になれなかったが、子どものためにチャレンジしてみたい。
--------	---

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・園だよりへのコラム掲載は、在園児の全ての保護者に、家庭教育の大切さやポイントを伝える手段としては有効だった。また、サブテーマを設け、記事を4回に分けて掲載したので、具体的なことを保護者に伝えることができた。 ・アドバイスプログラムは、その後の実践状況の把握が難しいと感じた。園だより掲載後、フォローする方法を検討する必要があると感じた。
-------	--

● 家庭教育とは 「あそび」編



子どもには「あそび」が大切といわれますがなぜ大切なのでしょう。
子どものあそびには、子どもの成長、発達に必要なものがつまっています。
あそびには「冒険」、「実験」、「発見」等があります。
子どもが散歩に出かければすぐに発見があります。道に咲いている花をみてひとつひとつの花の違いに気がつきます。葉っぱの色に注目し、葉っぱの形が全部違うことにも気がつく子もいます。ときにはしゃがんで葉の裏を見てしばらく観察している子もいます。
初めての道は曲がり角が気になり、その先はどうなっているのか、想像しわくわくしています。
大人にとっては何でもないような土の変化にも気付いたりします。草花の咲いている土と歩いてくる道の土の違いに気付いたり、泥団子を作る土の違いにも気付いたりします。
土に触れ、匂いを嗅ぎ、土の違いを確認する子もいます。そーっとポケットに土を詰め込みこども園に帰ってから水につけて粘り気を確認している子もいます。



あそびは子どもの興味・関心を満たしてくれます。子どもの自発的なあそびは「学び」の土台につながります。
私たち大人は危険がない限り、子どものあそびを自由にさせてあげることが大切だと思います。

茨城キリスト教大学 飛田 隆

6月号（あそび）掲載フォーマット

● 家庭教育とは 「睡眠」編



私たち大人は寝る事を話すときに寝ている時間の長さに焦点をあてて話すことが多く、例えば「昨日は休みだったので9時間も寝たよ」とか「忙しくて3時間しか眠れなかった」と話すことが多いのではないかと思います。

もちろんどのぐらい睡眠時間を確保するかは大切ですが、子どもの場合は、睡眠時間と何時に寝たかが大切になります。「早寝、早起き」の標語が昔から繰り返して伝えられています通り、早く寝ることは子どもの体を健康に保つために必要です。また脳を育てるためにとても重要です。

子どもたちにとって大切な成長ホルモンは午前2時頃までがもつともさかんに分泌されるため早めに寝ておく必要があります。

成長ホルモンには、身体の不調を整え、名前の通り成長を促してくれる働きがあります。

6歳未満のお子さんにとって理想とされる睡眠時間は11時間から12時間程度とされており、例えばこども園が9時から始まるとしますと8時位には起きることになります。そうしますと遅くとも9時に寝ていなくては11時間の睡眠の確保ができないことになります。



なかなか眠れないお子さんの場合は寝る前の環境も意識することが大切です。
寝る直前までテレビを見たり、ゲームをしていたりすると子どもの脳は興奮したままで眠ることができません。寝る時間の1時間位前にはテレビ等を控えることが大切です。

茨城キリスト教大学 飛田 隆

9月号（睡眠）掲載フォーマット

※ 11月号（食事）・2月号（排泄）は、【資料編】に掲載（県教育委員会ホームページ）。

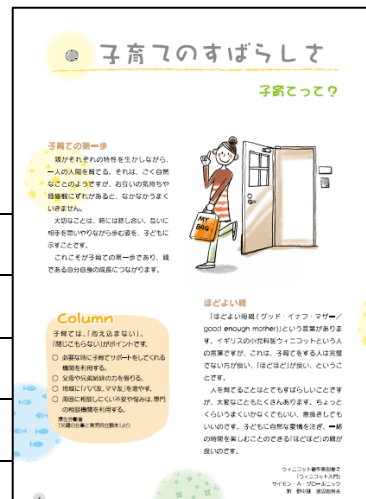
家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『親子の絆』 (3ページ) ⇒			
日時	平成30年11月13日(火) 10時00分～11時30分			
場所	美浦村立大谷保育所 ホール			
対象者	0歳児～5歳児保護者			
参加人数	55人			
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム			
学習形態	講演会 【講師】家庭教育研究所 常磐 由恵 氏			
準備物等	・「家庭教育ブックひよこ」から抜粋した資料 ・感想カード			
プログラム内容				
時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
5分	保育参観	<ul style="list-style-type: none"> 親子ふれあい活動での作品作りで「親子の絆」についてのイメージ作りをする。 講話が聴きやすいような場の設定をする。 保育参観後に保護者向けの講演会を企画し、声のかけ方やふれあいが親子の絆を結んで行くことに気付いてもらう。 感想カードの記入を終えた順に回収をする。 	副所長 所長	「ひよこ」からの抜粋プリント
75分	1 開会 2 所長挨拶 ・講師紹介 ・簡単に本日の趣旨とモデル事業について説明 3 講話「親子の絆」 講師 家庭教育研究所 常磐由恵 先生 ・家庭教育について ・乳幼児期のよりよい関わりについて ・子育てについて			
5分	4 閉会			
5分	5 感想カードの記入			
	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期のスキンシップの大切さを実感した。今まで足りていなかったことを反省し、今後はスキンシップを増やしていきたい。 叱り方の難しさを感じた。叱る前に、子どものとる行動の心理も読み取れるよう心がけ、叱り方を考えていきたい。 講演を聞いて育児への不安が和らいだ。 			
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育はとても大切なことがわかり、今日学んだことを今後の子育てに活かし、親子で成長していきたいという感想が聞けた。 家庭教育ブックひよこを保護者に周知し、活用する機会を増やしていきたい。 			



家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『子育てのすばらしさ』 (4ページ) ⇒
日時	平成30年6月29日(金) 10時30分～11時30分
場所	東海村立村松幼稚園 遊戯室
対象者	3歳児の保護者
参加人数	12人
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム
学習形態	講義 【講師】村教育委員会指導室家庭教育担当 グループワーク (3～4人)
準備物等	・家庭教育ブックひよこ ・PC ・プロジェクター ・スクリーン ・感想カード

プログラム内容

時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
5分	1 挨拶・自己紹介	・講師が自己開示することで、参加者も率直な意見交換ができるような雰囲気をつくっていく。	講師 社教主事	
10分	2 アイスブレイク 「ヒーローインタビュー」等			
5分	3 講義「日本の母について」	・現在の親は十分に頑張っていることや、無理せず甘えることの大切さを知らせていく。	講師 ↓	プレゼン資料
20分	4 グループワーク ・夫婦(パートナー)の関係について ・相談できる場所について ・ほどほどの親について	・参加者が十分に自分の思いを伝えたり、達成感を感じたりできるように時間配分をする。		
10分	5 発表	・他のグループの参考になる意見やこれからの家庭教育に生かせる意見を発表してもらう。	↓	
5分	6 まとめ	・最後に今回の話し合いや講義の内容を整理する。		
5分	7 感想の記入、閉会			



参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ては「ほどほどでいい」が心に残り、安心することができた。 ・他の保護者の方と話すことで自分だけではないという安心感やママ友の広がりにつながった。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは保護者がかたがた頑張らなければという余裕のない状態から終末の時には、気持ちを少し和らげることができたと感じた。 ・グループワークのスタートとしてはいいが、もっと話したいという参加者の思いを叶えるためにも、十分な時間がとれるとなおよい。

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム

お父さんの子育て

Column
父親の社会と家庭の役割を、仕事と育児を両立させるためのヒント集です。
【3歳未満】 2歳以上 3歳以上


できることから始めよう
お父さんの子育て！
子育ては義務ではなく
楽しい権利です。



あるテレビ番組が、父の日を前に、サラリーマンの父親さんたちに「父の日に一番嬉しいものは？」というアンケートをとったところ、「子どもの一人にいられる時間」という答えが一番多かったそうです。お父さんたちも、できることから子育てにもっと参加したいと思っているのです。
 父親の権利がもたらす効果については、父親が積極的に参加する機会が多いと幼児の社会性が促進され、同時に、母親の心を安定させるという効果も期待できます。
 しかし、そうは言っても毎日仕事で忙しいと、育児に参加するのは難しいこともあるでしょう。そんなときは少しの時間でもいいのです。
 できることに、できることから始めてみましょう。
 子育てを通して自分の成長を促され、自分自身のよりどころが生まれます。
 また、自分の仕事環境での活動範囲が広がれば、自分自身のよりどころが生まれます。

テーマ	『お父さんの子育て』 (5ページ) ⇒
日時	①平成 30 年 12 月 7 日 (金) 14 時 00~14 時 40 分 ②平成 30 年 12 月 11 日 (火) 14 時 20 分~15 時 00 分
場所	①みどりが丘保育園 ②たちばな幼稚園 遊戯室
対象者	① 3 歳児保護者 ② 4 歳児保護者
参加人数	①48 人 ②60 人
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム
学習形態	ワークショップ
準備物等	・ 家庭教育ブックひよこ (ない方へは、コピーを配布) ・ ワークシート ・ 感想カード ・ 筆記用具

プログラム内容

時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
5分	1 開会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月からの子ども達の園での様子を伝えながら、「ひよこ」をもとに活動の趣旨を伝える。 ・ お父さん (他の家族) の子育てについて、どんな役割をしているか、助かっていること、もう少し手伝って欲しいことなど情報交換する。 ・ 情報を共有し、今後の生活に役立ててもらおう。 ・ 自身の子育て経験を踏まえながら、まとめの話をする。 	園長 クラス担任	
15分	2 趣旨説明 グループづくり			
10分	3 グループワーク		保護者	
5分	4 グループごとに発表		男性体育講師	
5分	5 まとめ		クラス担任	
5分	6 閉会			

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の保護者の方と、情報交換が出来て良かった。 ・ 父親が進んで子育てに参加している家庭が多かった。 ・ 自分の悩みと同じ悩みを持つ方がいて共感でき、不安な気持ちがなくなった。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつも母親の参加が多い中、父親も積極的に話し合いに参加してくれたので、父親側の意見を聞くことが出来て良かった。 ・ 夫婦で参加して、話題を共有していただけたのが一番良いと思う。

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム

◎ 幼児期(3歳～5歳)の特徴

*** 子どもの発達について心配があったら ***

幼児期における発達には個人差があり、遅くても心配する必要はありません。子どもは成長のペースが異なります。心配する前に、子どもの発達を客観的に観察し、周囲の大人に相談することをおすすめします。子どもの発達には個人差があり、遅くても心配する必要はありません。子どもは成長のペースが異なります。心配する前に、子どもの発達を客観的に観察し、周囲の大人に相談することをおすすめします。

3歳児

基本的な生活習慣を身に付け始める時期です。自発的な行動が現れ始めるようになります。また、簡単な言葉で意思を伝えるようになります。基本的な生活習慣を身に付け始める時期です。自発的な行動が現れ始めるようになります。また、簡単な言葉で意思を伝えるようになります。


4歳児

想像力が豊かになり、遊びが活発になります。言葉の理解力も向上し、簡単な文法で意思を伝えることができます。想像力が豊かになり、遊びが活発になります。言葉の理解力も向上し、簡単な文法で意思を伝えることができます。

5歳児

基本的な生活習慣が身に付いており、自発的な行動が現れ始めるようになります。また、簡単な言葉で意思を伝えるようになります。基本的な生活習慣が身に付いており、自発的な行動が現れ始めるようになります。また、簡単な言葉で意思を伝えるようになります。

※発達には個人差があります。お子さんの発達について心配がある場合は、医師や専門家にご相談ください。

テーマ	『幼児期（3歳～5歳）の特徴』（6ページ）⇒			
日時	平成31年1月16日（水） 13時30分～15時30分			
場所	みどりが丘保育園 2階遊戯室			
対象者	たちばな幼稚園・みどりが丘保育園 保護者			
参加人数	68人			
プログラム	学習プログラム		アドバイスプログラム	
学習形態	講演会 【講師】聖徳大学大学院講師 篠原 孝子 氏			
準備物等	・スクリーン ・プロジェクター ・パソコン ・資料 ・マイク ・筆記用具 ・感想カード ・椅子 ・机 ・演説台 ・立て看板 ・プロジェクター台			
プログラム内容				
時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
17分	1 趣旨説明	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に積極的な姿勢で聴いていただけるよう、椅子の配置や室温などに気を付ける。 講師の先生に、趣旨や目的などを事前にしっかりと伝えておく。 	県推進員	
	2 開会の言葉		園職員	
	3 教育長挨拶		教育長	
	4 理事長挨拶		園理事長	
	5 講師紹介		園職員	
90分	6 講演	講師		
5分	7 質疑・応答	<ul style="list-style-type: none"> 講演会后、テーマについて、各々が考えを巡らせるような時間を取り、感想カードに記入していただく。 	園保護者会長	
3分	8 謝辞		園長	
5分	9 花束贈呈		園職員	
	10 閉会の言葉 (感想の記入)			
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> 自分の子育てを振り返り、色々なことに気づくことができました。 子育てで悩んでいた事や、聞きたいと思っていた事を聞くことができたので、とても参考になった。 子どもの気持ちに共感し、もっと一緒にたくさん遊ぼうと思った。 			
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 講演中、参加者が話し合う場面もあり、先生も会場を回って保護者の話を聞いてくださったので、和やかに学ぶ機会となった。 平日なので、参加できなかった保護者も多くいたので、なるべく多くの方に参加してもらえるよう、日程調整ができるとうよかった。 			

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム

テーマ	『あいさつと返事の習慣を』（7ページ）⇒
日時	平成30年6月12日（火）～平成30年11月22日（木）
場所	美浦村立木原保育所 保育室
対象者	0歳児～5歳児保護者
参加人数	5歳児16人、0歳児～4歳児67人、保護者40人
プログラム	<u>学習プログラム</u> ・ アドバイスプログラム
学習形態	ワークショップ
準備物等	・ 年長児が書いた手紙 ・ 感想カード ・ 保護者に活動内容を知らせるお知らせ

絵本のかわり
あひさつと返事の習慣を付ける

朝、元気に「おはようございます」とあいさつをした時、同じように元気に「おはようございます」とあいさつが返ってくる。一日が気持ちよくスタートします。

Check!

- お言葉ではお返事を返さずして返すか?
- 「おはようございます」「こんにちは」「おはようございます」を返さずして返すか?

Point

子どもが元気にあいさつできたら、「いい返事が返った!」と褒めましょう。お返事も返さずして返すか?と質問する。返事のない返事は返さずして返すか?と質問する。返事のない返事は返さずして返すか?と質問する。

「うちのまはハイという返事がなかなかできないんです」という相談がありました。「子どもに返事を返さずして返すか?」と質問すると、「返事がない返事は返さずして返すか?」と質問する。返事のない返事は返さずして返すか?と質問する。

「お、たくさんのお返事が返っています。子どもに返事を返さずして返すか?と質問する。返事のない返事は返さずして返すか?と質問する。」


「それは、みんな、頑張っている。返事のない返事は返さずして返すか?と質問する。返事のない返事は返さずして返すか?と質問する。」

プログラム内容

期日	内容	留意点	担当者	備考
6/1	1 保護者への周知 ・ 6月の保育所だより	・ ひよこのページも一緒に配布し、事前に趣旨を知らせ協力を求めておく。	所長	
6/12～	2 所での実践 ・ 美浦村のマスコットキャラクターに「おはようございます」「さようなら」「おへんじは『はい』」の貼り紙をしてあいさつ大切さを知らせる。	・ 「今の時間は、なんていうの?」と質問するなど、子ども達とのやりとりを楽しみながら状況に合わせた挨拶の言葉を引き出していく。	所長 主任	
6/27	3 5歳児による挨拶運動 ・ あいさつを促す手紙を書いて、説明しながら年少クラスを回る。	・ 5歳児に「どうしたらみんながもっと挨拶と返事が上手になると思う?」と相談し、そこから取り組みを考えていく。	5歳児担任 所長 主任	



・ 5歳児の取り組みを「お知らせ」で保護者に伝え5歳児の手紙を掲示する。

11/14	<p>4 保護者への働きかけ 「講演会」 演題：あいさつと返事の習慣を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観後に保護者向けの講演会を企画し、なぜ、あいさつと返事の習慣を身に付けることが大切なのか気付いてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者一人ではなく家族で聞いてもらえるよう事前に知らせておく。 	所長 主任	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会への参加者 約 40 人
11/22	<p>5 保護者の気付きの共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会後に記入してもらったアンケートの感想と講演会に参加できなかった保護者に内容を伝えるお知らせを配布する。 ・保育所で絵本を購入し、絵本貸出日に貸し出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の感想を読むことで気付きの共有を図る。 ・講師が講演会で読んでくれた絵本についても「題名」「出版社」等を知らせる。 	所長	
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、子どもたちが成長していることが実感でき良かった。 ・子どもの接し方や言葉かけなど、日々不安に思い、どんな関わりが一番いいのか考えていたので、今回の講演が聴けてとても良かった。 ・あいさつと返事の習慣の大切さを改めて知った。子どもに呼ばれた時、「はい」という返事を心がけたいと思う。 ・普段はなかなか余裕がなく、子どもに優しい言葉をかけてあげる余裕もないが、「はい」と子どもに応えるところから始めたいと思う。 ・子どもとの時間、触れ合う時間をもっと大切にしようと改めて思った。 ・幼児期は、長い人生で見るとほんの一瞬なので、今を大切に過ごしたいと思った。 			
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の講演会を通してその大切さを十分理解してもらうことができた。保護者が今回の講演会后、意識を変えて取り組んでくれることで子ども達は、「あいさつと返事の習慣を」身に付けてくれることと思う。 ・講演会についての感想にもあったようにこのような機会をまた設定し家庭教育の大切さを理解してもらえるような取り組みをしていきたい。 ・5歳児を中心とした取り組みにより、小さいクラスにも『あいさつをする・返事は「はい』』の意識を広めることができた。これからも子ども達と一緒に取り組みを続けていきたい。 			

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『生活リズムを整える』 (8ページ) ⇒			
日時	平成30年11月2日(金) 13時00分~14時00分			
場所	鹿嶋市立高松幼稚園 ホール			
対象者	鹿嶋市立高松幼稚園3歳児~5歳児保護者			
参加人数	26人			
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム			
学習形態	講演会 【講師】鹿嶋市教育センター教育指導員 岡部 幸子 氏			
準備物等	・家庭教育ブックひよこ ・講演資料 ・感想カード ・音響器具			
プログラム内容				
時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
5分	1 開会 ・園長挨拶 ・主催者紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に積極的な姿勢で参加していただけるよう、会場配置や室温に気をつける。 ・場の雰囲気や和らげる。 ・講演は保護者からの意見を受けながら進めることで、対話的な講演になるようにする。 ・生活リズムの大切さを伝えていく。 ・家庭教育についての思いや考えを自由に発表し、保護者間で共有できるようにする。 	副園長 園長 社教主事 副園長 講師 副園長	講演資料
3分	2 アイスブレイク ・じゃんけんゲーム			
40分	3 講師紹介 4 講演 「生活リズムの確立~行動でできる生活リズムをつくろう~」 (1)子どもの抱える問題 (2)問題解決のステップ (3)ワークショップ (4)まとめ			
5分	5 質疑・応答			
2分	6 謝辞			
3分	7 主催者より			
2分	8 閉会 (感想カードの記入)			

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活リズムを確立させるためには、家庭の中で子どもの話をしっかり聴いてあげることや褒めてあげることが大切なことがよくわかった。 ・親も子どもの目線で、家庭での一つ一つの習慣を見直し、楽しみながら子育てをしていきたい。 ・親も子どもとゆっくと向き合い、子どもと一緒に生活リズムについて考えていくことが大切になることがわかった。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートから、全ての保護者から参考になったという評価を得た。 ・家庭での子どもとの関わりが、園や学校生活の基盤となっていることが再確認できた。また、押しつける言い方ではなく、子どもの気持ちを尊重した声かけの仕方を考えた保護者が多数見られた。 ・講演の中でワークショップを取り入れたことで、保護者も自分の家庭教育について振り返ったり、考えたりするよい機会となった。 ・仕事をもっている保護者が多く参加できない人もいたため、講演会の時間について考えていきたい。

【講演会の様子】



家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム

親子のつながり
きまりを守る心を育てる

して欲しいこと、してほしくないことを伝えるとき、なぜ、いけないのかなのか、どうして「がまん」しなくてはいけないのか、その理由を、子どもが考えられるように伝えましょう。

Check!


- 事前に予定時刻は必ず守る。
- 親子ともに笑顔で、しつこくありませんか?

順番も待たせたい、お片づけもお願いしたい、



point

子どもは、順番待ちを嫌むものです。順番に遊ぶ(歌う、楽しい言葉で表現する)必要はなく、その順番なしのことを教える必要があります。子どもは、適切な大人の行動を真似します。きまりを守るよう厳しくしつこくしても、自分の行動を止めないでほしいです。きまりを守らせるよう厳しくしつこくしても、しっかりと伝えてあげましょう。子どもは自分のことが大好きになり、順番にも思いやりをもって参りますようになります。

テーマ	『きまりを守る心を育てる』 (9ページ) ⇒			
日時	平成30年12月14日(金) 14時00分~15時00分			
場所	みどりが丘保育園 2階遊戯室			
対象者	5歳児保護者			
参加人数	60人			
プログラム	学習プログラム		アドバイスプログラム	
学習形態	講話 【講師】 坂東市教育委員会社会教育主事 鈴木 忠雄 氏			
準備物等	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーン ・プロジェクター ・パソコン ・資料 ・マイク ・筆記用具 ・感想カード ・椅子 ・机 ・立て看板 			
プログラム内容				
時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
5分	1 開会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に積極的な姿勢で聴いていただけるよう、室温や椅子などの配置に留意する。 ・講師の先生に、趣旨や目的などをしっかりと伝えておく。 ・講話中も、質問やつぶやきが飛び交うような、リラックスした雰囲気づくりをする。 ・講話後、テーマについて各自が思いを巡らせ、じっくりと考えていただけるよう、家庭での感想カードの記入をお願いする。 	園長	
50分	2 趣旨説明 3 講師紹介 4 講話		講師	
5分	5 質疑・応答		園長	
5分	6 閉会			
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生まれてからの自分を振り返り、色々なことに気づくことができた。 ・忙しさを言い訳にせず、もっと子どもと向き合い、たくさん褒めようと思った。 ・幼児期からきまりを守る心を育てていくことの重要さが分かった。 ・叱り方に気をつけ、もっと子どもと向き合おうと思った。 			
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講話の間も、講師の先生と保護者とのやりとりがあり、楽しい話の中にも真剣に聞く姿勢が見られた。 ・感想カードを、持ち帰ってご家庭で記入していただいたので、回収率がいつもより悪かった。閉会后に記入をお願いするべきだった。 			

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『子どもをしっかりと聴きましょう』（10 ページ）⇒					
日時	平成 30 年 11 月 12 日（月） 10 時 00 分～11 時 30 分					
場所	茨城キリスト教大学附属認定こども園みらい園 遊戯室					
対象者	在園児保護者					
参加人数	27 人					
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム					
学習形態	講話, ワークショップ 【講師】茨城キリスト教大学講師 佐藤 美年子 氏					
準備物等	・ 家庭教育ブックひよこ ・ 資料（講師データの印刷） ・ ペイントマーカー ・ ツリー用材料 ・ アンケート ・ グルーガン ・ 新聞紙 ・ 託児用おもちゃ					
プログラム内容						
時間 (分)	内容	留意点	担当者	備考		
2分	1 開会（講師紹介含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師紹介をし、講話に興味を湧くよう導く。 ・ 準備及び片付けは、参加者に協力してもらう。 ・ グループをつくり、保護者同士の交流ができるようにする。 ・ この場での制作が目的ではないことを伝え、子どもの思いを大切にされた家庭での制作・会話につながるようにする。 ・ グルーガンの使用等、安全面について配慮する。 ・ 終了時刻を 10 分前に知らせ、片付けに入る。 ・ 「家庭教育ブックひよこ」の紹介をする。 ・ 約 1 ヶ月後に「家庭での実践状況」アンケートを行うことを知らせる。 	副園長	<ul style="list-style-type: none"> ※託児室の準備をしておく。 ・ ひよこ ・ 資料 ・ アンケート ※受付時に配布できるよう準備する。 ・ 制作用の材料 ※事務局で事前に準備しておく。 		
33分	2 講話 「子どもをしっかりと聴きましょう～親子で楽しくクリスマスツリーを作るために～」		講師		講師	
50分	3 ワークショップ 「松ぼっくりでクリスマスツリーを作ってみよう（子どもとの関わりについて話し合いながら）」 講師：佐藤美年子氏 （茨城キリスト教大学講師）					
2分	4 謝辞					副園長 参加者 副園長
2分	5 参加者からの感想					
1分	6 閉会					
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと作業をするときの関わり方について参考になった。 ・ 目的をもつ、また、どんなスタンスで関わるのかをイメージしておくことで、お互い楽しく取り組めることが分かり良かった。 ・ クリスマスツリー制作は時間が経つのを忘れるくらい夢中になった。家庭でも子どもと一緒に作りたいと思う。 					
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作に対する固定概念に捉われず、様々な物事に子どもと共に楽しみながら取り組むことが大切であると感じてくれたようだ。 ・ ワークショップでは、保護者自身にたくさんの笑顔が見られ楽しんで取り組んでくれていた。子どもと一緒に作ってみたい、一緒に楽しみたいという声がたくさん聞こえてきたので、今後の親子の関わり方の参考になったのではないかと感じた。 					

【講座の様子】



講義①



ワークショップ①



ワークショップ②



参加者感想



作品①



作品②



材料① (まつぼっくり, エコキャップ)



材料② (ビーズ, スパンコール, リボン, モール)

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム

メディアの視聴を考える

現代の子どもたちは、スマートフォン、携帯電話、タブレット端末、テレビ、パソコン、DVDプレーヤーなど、多くの電子メディア機器に囲まれて生活しています。メディアは上手に利用することが大切です。メディアに子どもをさせる状態を避けるために、家庭でルールを決めておくようにしましょう。

Check!

- 限定されている範囲といて、子どもがメディアの機能を理解させてあげようか?
- メディアについて正しい知識が伝わるか?

going!

幼児期から必要以上にメディア漬けの生活を避けてしまおう。親の役割、運動不足、睡眠不足、そしてコミュニケーション能力の低下などを生じさせるおそれがあります。

また、親の中でも、外でベビーカートを押しながらでも、スマートフォン等を覗きながらの育児では、子どもから目を離すことになり、安全に心配がたまってしまいます。

幼児期の子どもは、身近な人との関わり合いや自然体験などの遊びを通して、人間性を育み、自律性を身に付けていきます。電子メディアとの付き合い方について考え、散歩や遊び、読書を読むなど、親子で一緒に過ごす時間を大切にしましょう。

【家庭で用意してみましょう】

- メディアを利用する際のルールは、事前に決めて、実践できるようにしましょう。
- 興味深いながらテレビ、ビデオ、スマートフォン、携帯電話などの使用は控えましょう。
- 興味深いテレビ番組には、子どもを誘って見ましょう。
- 子どもがメディア機器に依存する危険性を減らすため（1〜2日1回視聴までを原則）、親子で一緒に見ましょう。
- 子どもも一緒に、テレビやDVDプレーヤー、パソコン、タブレット端末などのメディア機器を掃除しましょう。

テーマ	『メディアの視聴を考える』 (11 ページ) ⇒
日時	平成 30 年 5 月 9 日 (水) 10 時 00 分～10 時 40 分 ※ 後援会総会前の時間を利用して実施
場所	茨城キリスト教大学附属認定こども園せいじ園 遊戯室
対象者	在園児保護者
参加人数	126 人
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム
学習形態	講話 【講師】 子どもとメディア関東インストラクター 水野 史代 氏
準備物等	・スクリーン ・プロジェクター ・パソコン ・資料 ・家庭教育ブックひよこ ・感想カード

プログラム内容

時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
2分	1 開会 (講師紹介含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭教育ブックひよこ」の説明も行う。 ・講師紹介をし、講話に興味を湧くよう導く。 	主任 市職員 講師	<ul style="list-style-type: none"> ・PC ・プロジェクター ・スクリーン ※早めに設定 (接続) 確認を行う。 ※託児コーナーを設置する。
35分	2 講話「親と子の響き合い～メディアと賢くつきあう方法～」 講師：水野史代氏 (子どもとメディア関東〈インストラクター〉)			
2分	3 謝辞	<ul style="list-style-type: none"> ・時間短縮のため、アンケート記入は、後援会総会終了後に実施。 	園長 副園長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 ・ひよこ ・感想カード ※受付時に配布できるよう準備する。
1分	4 閉会			

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの前でスマホを無意識に使っている自分を見直す良い機会になった。 ・メディアとの付き合い方、遊びの大切さはわかっていたが、今回、詳しい説明を聞き、さらに子どもとの接し方を考えようと思った。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアが生活の一部になっている今、利用の仕方について家族と話し合いながら改善していこうと考える保護者が多数見られた。五感の成長が著しいこの時期だからこそ、実体験の大切さや父親を巻き込んだ遊びの大切さを学ぶことができた。 ・今後は、母親だけでなく父親、祖父母にもメディアの影響を知らせていく必要性を感じた。

【講座の様子】



講義①



講義②



講義③



謝辞

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『食育の大切さを考える』 (12 ページ) ⇒
日時	平成 30 年 7 月 17 日 (火) 10 時 30 分～11 時 30 分
場所	東海村立村松幼稚園 遊戯室
対象者	3 歳児の保護者
参加人数	15 人
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム
学習形態	講話 【講師】村教育委員会指導室家庭教育担当 グループワーク (4～5 人)
準備物等	・家庭教育ブックひよこ ・PC ・プロジェクター ・スクリーン ・感想カード ・絵本①「がたんごとんがたんごとん」②「ぐりとぐら」「おべんとう」「くだもの」等

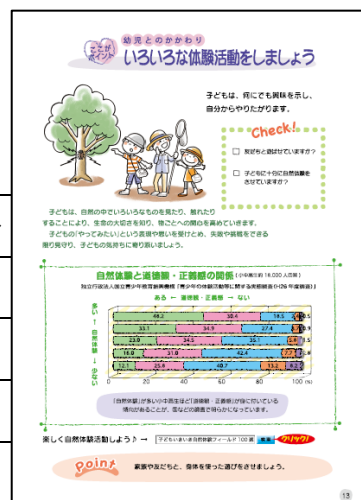
プログラム内容

時間 (分)	内容	留意点	担当者	備考
2分 10分 3分	1 挨拶・自己紹介 2 アイスブレイク 「本日のプチ幸せ」等 3 絵本①読み聴かせ	・講師が自己開示することで、参加者も率直な意見交換ができるような雰囲気をつくっていく。 ・幼児の気持ちになって聴いてもらうとともに、内容を振り返り、食事の順序性や自己肯定感の育成に繋がっていることを確認する。 (その絵本の意図を確認)	講師 社教主事 講師	
10分	4 グループワーク 食事の中での悩み	・参加者が十分に自分の思いを伝えたり、達成感を感じたりできるように時間配分をする。		プレゼン資料
5分	5 発表	・他のグループの参考になる意見やこれからの流れをつくれる意見を発表してもう。		
20分	6 講義「食事に必要なこと」 ・お腹を空かせる ・安心感と共感 ・お手伝い(料理と片付け) 7 絵本②紹介と活用法の解説	・栄養は、ただ食事を摂ればよいわけではなく、子どもの気持ちに寄り添って楽しみながら食卓を囲むことを伝えていく。 ・食事の導入として活用できる絵本の紹介をする。		
5分 5分	8 まとめ 9 感想の記入、閉会	・最後に今回の話合いや講義の内容を整理する。		



参加者の感想	・食事に對する悩みを他の参加者と共有し、少し安心することができた。 ・栄養は安心感や信頼できる人(親等)の共感があることが大切と聞き、今後意識して取り組んでいきたい。
成果と課題	・アイスブレイクや絵本を取り入れたことで、やわらかい雰囲気講座ができた。 ・食育に對する悩みが多種多様出てくるので、すべての悩みを話し合うには時間的な制限があり、抽出になってしまった。(講座後に対応)

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『いろいろな体験活動を楽しもう』（13 ページ）⇒			
日時	平成 30 年 10 月 17 日（水）10 時 30 分～11 時 30 分			
場所	高松緑地公園			
対象者	鹿嶋市立高松幼稚園 4 歳児～5 歳児親子			
参加人数	23 組			
プログラム	学習プログラム		アドバイスプログラム	
学習形態	親子体験学習 【担当】 4 歳児・5 歳児担任			
準備物等	<ul style="list-style-type: none"> ・放送器具 ・自然物（落ち葉・木の実等） ・カラーポリ袋 ・テープ ・ガムテープ ・マジック ・ブルーシート ・感想カード ・家庭教育ブックひよこ（p13） 			
プログラム内容				
時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
2分	1 開会	・本日のテーマ・内容をわかりやすく伝える。	副園長	放送の用意
3分	2 アイスブレイク ・手遊び「できたできた」	・楽しい雰囲気づくりをする。	園職員	
20分	3 親子での体を使った遊び ・フレフレ親子体操 ・ふれあい遊び ・ふれあい手遊び「つくね」 ＜曲に合わせて踊る＞	・安全かつ伸び伸び動けるように場の設定をする。 ・親子で楽しく活動できるように場づくりをする。 ・職員が必要に応じて支援する。	園職員	
30分	4 自然物を使った遊び ・落ち葉遊び ・落ち葉で洋服づくり（スカート、マント、ベストなど）	・安全面に留意して、遊ぶようにする。 ・親子でスムーズに洋服作りができるようにグッドモデルを掲示する。	園職員 副園長	材料の用意 ・自然物 ・カラーポリ袋 ・テープ ・ガムテープ ・マジック ・ブルーシート
5分	5 閉会（感想記入）	・県の家庭教育推進事業について周知する。	県就学前教育・家庭教育推進員	感想カード

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に秋を感じながら、落ち葉や木の実を集め、洋服作りをしたことがとても楽しかった。子どもたちの発想力に驚いた。家庭でも実践してみたい。 ・ふれあい遊びの中で、ふだん子どもをぎゅっと抱きしめることが少ないので、とてもよききっかけとなった。家庭でも子どもとのふれあいを大切にしたい。 ・身近な公園でこんなに楽しく体験活動ができたことに驚いた。休日にまた来て、今日のプログラムをしてみたい。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートから、9割以上の保護者から楽しく有意義な活動と評価を得た。 ・親子で体を動かさず活動の中で、スキンシップが図られ、笑顔あふれる活動になった。親子でふれあう体験の大切さについて確認することができた。 ・自然物を使った洋服作り活動では、子どもたちの発想を生かして、ベスト、スカート等様々な物を作ることができた。親子で制作した洋服を持ち帰る子どもたちは本当に喜んでいて。休日にまた来ようと約束している家庭も見られ、これからの親子や自然とのふれあいにつながる体験活動となった。

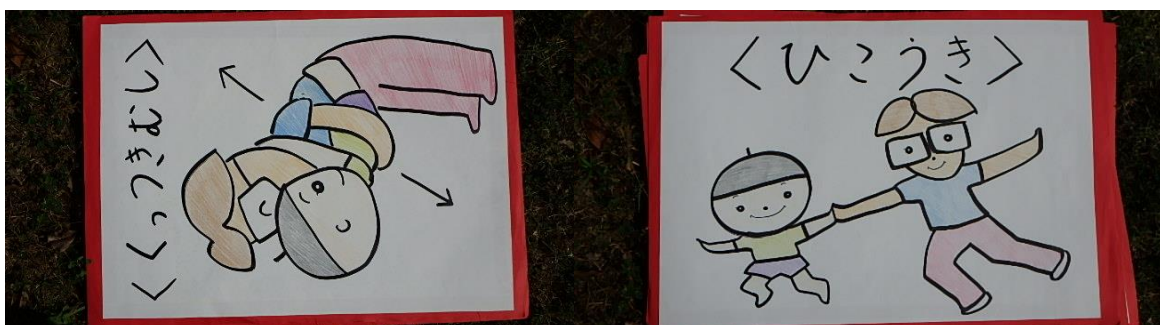
【親子ふれあい遊びの様子】



【自然物を使った洋服作りの様子】



【資料 フレフレ親子体操の模範図】



※ これ以外のカードについては【資料編】に掲載（県教育委員会ホームページ）。

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム

テーマ	『積極的にお手伝いをさせましょう』（14 ページ）⇒
日時	平成 31 年 2 月 8 日（金）10 時 40 分～11 時 50 分
場所	美浦村立美浦幼稚園 ホール・クラス
対象者	5 歳児保護者
参加人数	49 人
プログラム	<u>学習プログラム</u> ・ アドバイスプログラム
学習形態	ワークショップ、講演会 【講師】大成学園幼稚園長 木村 久美子 氏
準備物等	・家庭教育ブックひよこ ・スクリーン ・プロジェクター ・パソコン ・感想カード

幼幼とのかわらり
積極的にお手伝いをさせましょう

幼児は、お手伝いが大好きです。
お母さん、お父さんに「ありがとう」「助かったわ」と
喜んでもらえると、もっとお手伝いが好きになります。
人の役に立つうれしさを満喫は、人のために
何かしようと思えたり、思いやりの心を育ててくれます。
積極的にお手伝いをさせましょう。

Check!

- 子どもは積極的にさせてあげますか？
- 積極的に手伝いさせることで、子どもの成長が促されますか？
- 積極的に手伝いさせることで、子どもの自立心が育ちますか？
- 積極的に手伝いさせることで、子どもの責任感が育ちますか？
- 積極的に手伝いさせることで、子どもの達成感が育ちますか？

子どもにできるお手伝いの例と効果

- お母さん、お父さんに「ありがとう」「助かったわ」と喜んでもらえると、もっとお手伝いが好きになります。
- 人の役に立つうれしさを満喫は、人のために何かしようと思えたり、思いやりの心を育ててくれます。
- 積極的にお手伝いをさせましょう。
- お母さん、お父さんに「ありがとう」「助かったわ」と喜んでもらえると、もっとお手伝いが好きになります。
- 人の役に立つうれしさを満喫は、人のために何かしようと思えたり、思いやりの心を育ててくれます。
- 積極的にお手伝いをさせましょう。

point

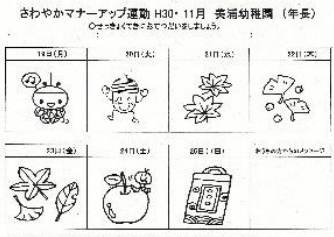
お手伝いは、子どもにとって初めての人の役に立つという経験です。お手伝いをする中で自分の役割ができ、家族の一員であることを実感します。家族の役に立てるという経験は、子どもにとって大切な成長の機会、やりなげばという責任感も芽生えます。

そして、喜ばれ、認められることで自信を持って行動したいと思えるようになります。人の役に立つという経験が、子どもにとって大切な成長の機会、やりなげばという責任感も芽生えます。

また、お手伝いを通して、仕事の大切さや自分ごとになり、親への感謝の気持ちも芽生えていきます。

お母さん、お父さん、日々生活の中で様々な経験が得られるお手伝い。小さなことでもよいので積極的にお手伝いをさせ、たくさん褒めてあげましょう。褒めてもらうことが子どもにとって大切な成長の機会、やりなげばという責任感も芽生えます。

プログラム内容

時間(分)	内容	留意点	担当者	備考
15分	1 意見交換 ※9月・10月・11月とマナーアップカードに各家庭で取り組んだことを意見交換する。	 <p>さわやかマナーアップ運動 H30・11月 美浦幼稚園（年長） のマナーアップカードをぜひ活用しましょう。</p>	担任	
50分	2 講演会 「積極的にお手伝いをさせましょう」 【講師】 大成学園幼稚園長 木村久美子先生	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育ブックひよこ「積極的にお手伝いをさせましょう」を中心に話を聞く。また、小学校入学前の対応について講話を頂く。 ・お手伝いをし、認められることで、自己有用感や非認知能力が高まることに気付いてもらう。 	園長 主任 講師	PC プロジェクター スクリーン
5分	3 感想の記入	<ul style="list-style-type: none"> ・感想カードの記入終了順に回収をする。 		感想カード

参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・他の家の様子を聞いて参考になった。 ・良いきっかけとなり、これからも続けてほしい。 ・簡単なことでも楽しそうにできて、自信になり頼んでよかった。 ・講話の内容がわかりやすく、ためになる内容だった。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーアップカードの活用で、積極的にお手伝いをする園児が増えた。今後も習慣になってくれる方向にもっていきたい。講演では、保護者がお手伝いの必要性を理解できた。家庭でのお手伝いを進め、認め励ますことが自己有用感の獲得や非認知能力の向上に繋がることを知り、お手伝いに継続的に取り組んでいこうとする動機付けとなった。

【マナーアップカードを活用しての感想を共有】

平成30年11月吉日

年長組保護者 各位

美浦幼稚園長 坂本千寿子
年長組担任

マナーアップカードについて

子ども達は、この時期いろいろな経験をし、友達とのかかわりも深まり、興味関心を示し活発に活動しています。特に、生活発表会に向けて張り切っていますので、あたたかく見守り、ご協力の程よろしくお願い致します。


さて、昨年に続き、「就学前教育・家庭教育推進のための市町村モデル事業」（「家庭教育ブック ひよこ」に関する研究について）を実施しています。今年度のテーマは、「積極的にお手伝いをさせましょう。」です。年長組の皆さんには、それぞれお手伝いの内容を話し合い決めていただき、9月・10月・11月とマナーアップカードへの記入、提出のご協力をお願いしました。

ご協力ありがとうございました。皆様からのご意見・ご感想を紹介したいと思います。

○感想・ご意見

- ・「やだー」の日もあったけど、すこしだけでもやってくれました。たくさんやってくれる日もありました。
- ・目標「テーブル拭き」・・・体調を崩して出来なかった日もあったけど、その他の日はお願いする前に、自分から積極的に出来ました。
- ・自分から、今日何やる～？と聞いてくる日もあれば、これやってー！と頼んでもちょっと待ってと言ってそのままやらなかったり。でも、簡単なことだけで楽しそうに出来て頼んで良かったです。
- ・この運動のおかげで、積極的にお手伝いをする様になったので、今後も習慣になってくれる方向に持っていけたら・・・と思います。良いきっかけになるので続けて欲しいです。
- ・目標「お洗濯たみ・ご飯の用意のお手伝い」・・・はりきって手伝ってくれる日もあれば、動画に夢中な日も・・・毎日、少しでもいいので手伝ってくれると嬉しいです。
- ・目標「くつをそろえる」・・・目標以外にもたくさんのお手伝いをしてくれました。これからも続けてくれますように。
- ・目標「自分の食器を流しに持っていく」・・・夏休みから引き続き、食事後、自分の食器を流しに運んでいます。自分から持って行く事ができるようになりました。これからも続けていきたいと思っています。
- ・目標「玄関のくつを並べる・毛布をたたんで片付ける」・・・何を手伝えるのか、自分で決めて楽しそうに手伝ってくれました。マナーアップカードに色を塗るのも何色にしようか悩みながら塗っていました。
- ・目標「お風呂のお湯を止める」・・・もう少し、難しいお手伝いにした方がよかったかな。
- ・夜ごはんの時に、お皿や箸を並べたり、すすんでお手伝いをしてくれました。あ！お手伝いしないとマナーアップカードの色がぬれない！などと言ってしっかり責任を持ってくれました。

以上のような感想・ご意見がありました。目標を設定しチャレンジする子、その時の状況により相談をしてできることをする子、それぞれに親子で相談し取り組んで下さいました。今後も、引き続き良い習慣として身に付けてほしいと思います。



家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム



テーマ	『病気・事故』 (15 ページ) ⇒
日時	平成 31 年 1 月 21 日 (月) ~ 1 月 23 日 (水) ・個別面談 13 時 30 分 ~ (各家庭 10 分程度)
場所	鹿嶋市立高松幼稚園各教室
対象者	3 歳児 ~ 5 歳児保護者
参加人数	42 人
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム
学習形態	個別面談の機会を利用したアドバイスプログラム
準備物等	・家庭教育ブックひよこ (p15) ・アドバイスカード「病気・けがのアセスメント~どんなときが要注意?~」 ・アンケート用紙

プログラム内容

時間 (分)	内容	留意点	担当者	備考
事前	1 担任から事前にアドバイスカード「病気・けがのアセスメント~どんなときが要注意?~」を保護者に配布する。	・個別面談の前には、必ず目を通してもらえるように周知する。	担任	アドバイスカード
7分	2 個別面談において、子どもの「病気・事故」について日頃から気をつけていることについて確認する。 ①病気の予防について ②事故の予防について ③アドバイスカードの活用の仕方について	・家庭で病気や事故について気をつけていることや困った経験等を中心に話を合わせるようにする。 ・アドバイスカードの活用の仕方について助言する。	担任	
3分	3 アンケート用紙の配布	・アドバイスカードについて、保護者アンケートを実施する。	担任	アンケート用紙

<p>参加者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの病気やけがについての対処法がわかりやすく記載されており、いざという時にたいへん役立つ内容であった。保護者が落ち着いて行動をするために大変助かる。 ・とてもコンパクトに作成されており、見やすい構成で保管しやすい。万が一に備えて、バッグ等に入れて携帯したい。 ・これまで子どもの緊急時に気が動転してしまい困ったことがあったが、こういうカードがあるとありがたい。 ・市内の医療機関名や連絡先などが記載されているので、非常に便利だと思う。
<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、アドバイスカード「病気・けがのアセスメント～どんなときに要注意？～」を保護者に配布し、個別面談時に利活用についてのアンケートを行ったが、全員の保護者が「参考になった・一部参考になった」という回答であった。 ・見やすく、コンパクトに作成したため、鞆などに入れて常に携帯している保護者が多く、子どもの緊急事態に対応できるという感想が多く寄せられた。 ・今後は市内の全幼児教育施設に配布し、活用を図っていきたい。

【アドバイスカード 裏面】

<h3>1 熱が出た</h3> <p>家庭でのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水分の補給をしましょう。 ○暑気払いの衣服を着せましょう。 ○室温が1～2℃低い状態にしましょう。 ○寝具を清潔にし、清潔・通気性を高めましょう。 ○着替えや清潔な寝具がすぐ手元に準備できるようにしましょう。 <p>始める？あやます？</p> <p>熱が出ているときは、高熱が続き、心拍数が増えたり、顔が赤くなると、熱く感じる場合があります。そのときは解熱剤を服用し、水分を多くとらせます。</p> <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●熱が38.5℃以上続く。 ●解熱剤を服用して、反応が薄い。 ●けいれんがある。 ●病気が悪化しているサインがある。 	<h3>2 お腹が痛い</h3> <p>家庭でのケア</p> <p>腹痛、吐き気や嘔吐を伴う場合は、脱水を防ぐために少量の水分を補給しましょう。</p> <p>始める？あやます？</p> <p>おなかの痛みは、腸の動きが乱れている可能性があります。おなかを優しくマッサージしてあげてください。</p> <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●強い痛みが持続して繰り返す。 ●嘔吐や下痢が続く。 ●痛みがひどくなったとき（7歳以下） 	<h3>5 息が苦しい・胸が痛い</h3> <p>家庭でのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○呼吸が苦しい場合は本人の状態を冷静に観察しましょう。 ○呼吸が止まらなければ、安静にさせましょう。 ○呼吸が止まらなければ、適切な応急処置をしましょう。 ○吐き気や嘔吐の場合は、適切な応急処置をしましょう。 <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●呼吸が止まらなくなった。 ●胸が痛い。 ●顔色が青くなった。 ●意識がなくなった。 	<h3>6 皮膚がかゆい</h3> <p>家庭でのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○肌がかゆい場合は、清潔なタオルで優しく拭き取りましょう。 ○保湿剤を塗布して肌の乾燥を防ぎましょう。 ○清潔な状態を保ち、清潔な衣類を着せましょう。 ○肌がかゆい場合は、清潔なタオルで優しく拭き取りましょう。 ○保湿剤を塗布して肌の乾燥を防ぎましょう。 ○清潔な状態を保ち、清潔な衣類を着せましょう。 <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●かゆみがひどく、掻き壊す。 ●顔が赤くなる。 ●呼吸が苦しい。 ●意識がなくなった。
<h3>3 目が痛い</h3> <p>家庭でのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○清潔な手で顔を洗って、目を拭き取りましょう。 ○目を洗った後は、清潔なタオルで拭き取りましょう。 ○目を洗った後は、清潔なタオルで拭き取りましょう。 ○目を洗った後は、清潔なタオルで拭き取りましょう。 <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目が赤くなる。 ●目が腫れる。 ●目が痛い。 ●目が開かなくなる。 	<h3>4 頭を打った</h3> <p>家庭でのケア</p> <p>頭を打った場合は、冷たいタオルで冷やしてあげてください。</p> <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●意識がなくなった。 ●嘔吐や下痢が続く。 ●痛みがひどくなったとき（7歳以下） 	<h3>7 やけどをした</h3> <p>家庭でのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やけどをした場合は、流水で冷やしてあげてください。 ○やけどをした場合は、流水で冷やしてあげてください。 ○やけどをした場合は、流水で冷やしてあげてください。 ○やけどをした場合は、流水で冷やしてあげてください。 <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●やけどがひどい。 ●やけどが広範囲に広がった。 ●やけどが顔や手足に当たった。 	<h3>8 歯が折れた・口の中を切った</h3> <p>家庭でのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歯が折れた場合は、流水で冷やしてあげてください。 ○口の中を切った場合は、流水で冷やしてあげてください。 ○歯が折れた場合は、流水で冷やしてあげてください。 ○口の中を切った場合は、流水で冷やしてあげてください。 <p>緊急を必要とするサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出血が止まらない。 ●顔が腫れる。 ●意識がなくなった。

※アドバイスカード「病気・けがのアセスメント～どんなときに要注意？～」については、【資料編】に全面を掲載（県教育委員会ホームページ）。

家庭教育支援資料「家庭教育ブックひよこ」実践プログラム

子育てチェックシート

子育てチェック

い いつもニコニコ元気にあいさつ

笑顔で、元気にあいさつしていますか？
 「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」「いただきます」「ごちそうさま」を言っていますか？

は バランスのとれた食事を

毎日で一緒に食事をとっていますか？
 「家族の健康を心配していますか？」

え 楽じゃないけど、本当は楽しいはず…

思い通りにいかない子育てで、たまには愚痴をしていますか？
 子育ての悩みを親しい人に相談していますか？

き 気になる…乾り方

乾き以上に、濡れたい気持ちがありますか？
 子どものおませさや反抗行動をどうしていますか？
 物事に任せ過ぎてしまわないよう心がけていますか？

つ つらいけれど慣れば保乳！ 早産早起き！

大人の生活リズムに子どもを合わせようと思いませんか？
 早い時間に起きさせていますか？（早起き→早起きにつながる）

こ コミュニケーションを大切に

自然の中で遊ばせていますか？
 読書好きを大事にしていますか？
 子どもとゆっくり過ごす時間をとっていますか？

! おうちのルールを作ろう！

いはい
 ええ
 うん
 はい

テーマ	『子育てチェックシート』 (16 ページ) ⇒
日時	平成 30 年 11 月 20 日 (火) 10 時 30 分～11 時 30 分
場所	東海村立村松幼稚園 遊戯室
対象者	3 歳児の保護者
参加人数	20 人
プログラム	学習プログラム ・ アドバイスプログラム
学習形態	講義 【講師】村教育委員会指導室家庭教育担当 グループワーク (4～6 人)
準備物等	・家庭教育ブックひよこ ・PC ・プロジェクター ・スクリーン ・感想カード

プログラム内容

時間 (分)	内容	留意点	担当者	備考
5 分	1 挨拶・自己紹介	・講師が自己開示することで、参加者も率直な意見交換ができるような雰囲気をつくっていく。	講師 社教主事	
5 分	2 アイスブレイク 「本日のプチ幸せ」等			
25 分	3 グループワークと発表 ・2項目ずつグループワーク⇒発表を繰り返す	・参加者が十分に自分の思いを伝えたり、達成感を感じたりできるように時間配分をする。 ・他のグループの参考になる意見やこれからの流れをつくれる意見を発表してもう。	講師	プレゼン
15 分	4 おうちのルールの作り方を解説	・親子で相談し、難易度も考えて設定できるように伝える。必ず1つ～2つは容易に達成できるものを設定し、自己肯定感につながるように知らせる。	↓	
5 分	5 まとめ	・最後に今回の話し合いの内容や講義の内容を整理する。		
5 分	6 感想の記入、閉会			



参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・育児の中の頑張りどころが分かり勉強になった。 ・今までのひよこの内容を振り返ることができてよかった。 ・他の保護者と話す時間があり、様々な意見が聞けて良い時間になった。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が話す時間を十分に確保できるプログラムであるが、意見が偏りすぎないように、それぞれのグループの協議内容に耳を傾ける必要がある。グループ分けにも工夫や配慮があるとよいと感じた。

「遊び」が育てる

幼児期の自発的な遊びの中で育まれた、やり抜く力や協調性などの「非認知的能力」が、小学校以降の学びにつながります。



「学び」の未来

 茨城県教育委員会

就学前教育・家庭教育推進室

【問合せ先】

茨城県教育庁就学前教育・家庭教育推進室

〒310-8588 茨城県水戸市笠原町 978 番6

☎ 029-301-5132